

# ケースレポート①

## – SAP療法中にHbA1cコントロール不良となった 1型糖尿病（20歳女性、大学生） –

### 患者背景

**性別／年齢：**女性、20 歳

**診 断：**1 型糖尿病（1 年前に診断）

**H b A 1 c：**10.3%

**糖尿病治療状況：**基礎インスリン注入量:0:00～2:00 7単位/hr、2:00～8:00 9単位/hr、8:00～0:00 6単位/hr（総基礎インスリン量:16単位/日）。

糖質/インスリン比:1単位/15g。

インスリン効果値:60mg/dL（血糖値150mg/dL時）。

**現在の血糖値：**補正インスリン追加無しの場合の総インスリン量:30単位/日。

アラームの誤作動や定期的な血糖値のリマインダ表示を嫌がり、CGMデバイスの使用を中止していた。夜間低血糖を恐れ、血糖値測定は就寝中のみ行っていた。補正インスリン投与は、測定で得た血糖値よりも、むしろ自覚症状に基づいて行っていた。

**フラッシュグルコースモニタリングを行なう目的：**大学入学後の初回受診は入学6か月後だった。講義中や夜間の低血糖を恐れて、正常値より高く管理していたことを認めた。HbA1cが10%を超えていたことに動揺し、測定結果が誤っているのではないかと疑問も口にした。大学内の学生食堂の高カロリーの食事、間食やビール飲量の増加により、“freshman15※” になることが懸念されたが、実際には、大学入学後、体重は約3.2kg（7ポンド）減少していた。自分の選択がHbA1c高値の原因であったことを確認するため、講義の妨げ、悩みの種となるアラームがないFreeStyleリブレの使用に同意した。 ※大学入学後、1年目に食べ過ぎや運動不足が原因で体重が15ポンド（約6.8kg）太ってしまうこと。

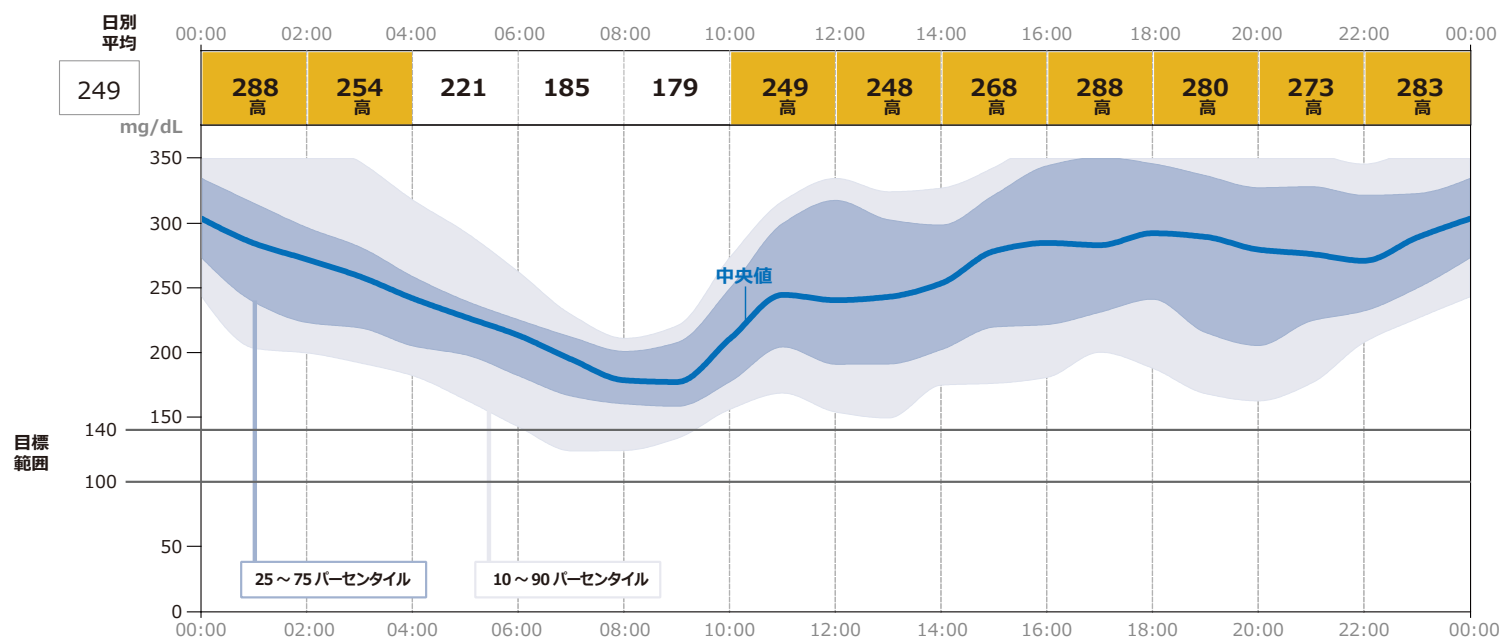
### ● 治療介入前

#### 日内パターン

2014 年 7 月 3 日 – 2014 年 7 月 16 日 (14 日)

📱 グルコース

推定 A1c: 10.3%または 89mmol/mol



## レポートから得られた知見

### ① グルコース値は目標範囲内にありますか？

測定値の95%が目標値を上回っている。

### ② 低グルコースのリスクはありますか？

14日間の測定期間中、低グルコースの発現は認められなかった。

### ③ グルコース値の日内変動はありますか？

基礎インスリン投与量が増加した結果、夜間0:00から08:00にかけて、グルコース値の低下傾向がみられた。朝食後にグルコース値の著しい上昇がみられ、就寝まで緩やかな上昇傾向が続いた。

### ④ グルコース値の日差変動はありますか？

起床中、大幅なグルコース値の変動がみられた。変動は夜中にも生じており、夜中の食事摂取が示唆される。